



## 「やってみよう」を形にしたい 日光地区の集落支援員 井中友子さん

**日** 光地区の活性化を推進する「集落支援員」として、井中友子さんが5月1日から日光公民館に着任しました。

集落支援員は、町から委嘱を受け、集落の点検や住民への聞き取りをもとに、地域の課題を把握し、住民同士・住民と町の橋渡し役となつて、協議や施策提案を行うことで、人口減少や高齢化に悩む集落の課題解決を支援します。

井中さんは、「地域の人のやってみよう」を形にしたい、若者や外部の人を呼び込む仕組みを作つて地域を元気にしたい」と、意欲的に話しました。任期は、平成29年3月末までです。



ごあいさつ

日光地区は、今年3月に小学校が開校し、子どもたちの賑やかな声を聞く機会も減ってしまいました。しかし、「日光地区協議会」や「稲谷を元気にしよう会」をはじめ、日光地区の皆さまが立ち上がり、この地区を盛り上げようと知恵を絞つて、楽しいことを考えています。その姿に、「私も力になりたい」と思い、仲間に入れていただきました。

日光地区をはじめ、伯耆町を「みんなであつくる町」にしていきたいと考えています。伯耆町の皆さま、よろしくお願いたします。

5月28日(土)

## 日光地区、活性化へ向け連携強化

「日光地区自治連合会と

「C55・まち支え合い共生の里」協定締結

**日** 光地区協議会と米子市の義方校区自治連合会が5月28日(土)、日光地区の活性化に連携して取り組む「むら・まち支え合い共生の里」協定を締結しました。同日、旧日光小学校で行われた調印式では、同地区協議会・木村修司会長、同校区自治連合会・村築俊朗会長、県・米子市・伯耆町の3首長が、協定書に調印しました。

この協定は、中山間地域の農村と市街地住民組織が、農地・用水路などの保全管理や、農産物の生産・加工品づくりに協働して取り組むことで、農業・農村の活性化を図る県の事業です。

協定期間は5月28日から平成30年度末までの約3年間で、県と伯耆町が年間39万円を上限に補助します。主な活動内容は、農地・用水路・農道などの保全管理、農産物の栽培・販売、遊休農地の再生、菜の花栽培による景観美化と菜種油づくり、白水川の保全活動などが予定されています。



「C55・まち支え合い共生の里」協定調印式

▲旧日光小で行われた協定調印式

6月7日(火)

## 還付金詐欺被害を未然に阻止

「黒坂署、林原豊さんに感謝状」

**医**

療費還付金詐欺の被害を未然に防いだとして、黒坂警察署は6月7日(火)、伯耆町小林の林原豊さん(51)に感謝状を贈呈しました。

林原さんは、5月24日の午後2時頃、町内銀行のATMで、携帯電話を使いながらATMを操作している高齢男性を不審に思い、声をかけました。男性が「市役所職員から電話があり、医療費が返ってくるのでATMへ行くように言われた」と話したため、林原さんは詐欺だと確信して警察へ通報し、水際で被害を食い止めました。

林原さんは、「声をかけたら、その方も不安だったようで、電話の内容などを相談してくださいました。勇気を出して、声をかけて良かった」と話しました。

同署の柴田互署長は、「お金が返ってくるという甘い言葉にだまされないように。不安なときは、一人で悩まず警察に相談してほしい」と話しました。



▲柴田互署長から感謝状を贈呈



▲振込み直前の高齢男性に声をかけ、詐欺被害を防いだ林原豊さん